

つるし事飾りのパーツづくり業

団体名

やまだ街づくりネットワーク

震災後の地域の状況・仮設住宅数等

市街地の大半が壊滅的な被害を受け、人口約 19,000 人から約 17,000 人に減り、うち約 800 人の方が死亡や行方不明。町内43箇所に 1,940 戸の応急仮設住宅が建設されている。

<取組名>

～つるし飾りのパーツづくり活動～

取組概要

実施形態 (該当に○)	自治体単独実施	団体等との連携実施	大学との連携実施	(連携している団体等・大学の名称)
	○			
実施主体・ 場所等	コーディネーター数	ボランティア延べ人数	年間実施日数(回数)	活動場所
	2人		24回	街かどギャラリー

活動内容

※該当する内容に○

学校支援	学習支援	部活動指導	美化・環境整備	登下校指導	学校行事・その他
					()
学校と地域の 協働学習	復興学習	防災教育	伝統文化・芸能	職業体験・キャリア教育	イベント・行事・その他
					()
放課後等支援	学習支援	体験・交流活動	遊び・スポーツ	児童クラブとの連携	その他
					()
家庭教育・ 保護者支援	家庭教育講座	親子参加行事	サロン・相談対応	家庭訪問相談	その他
					()
地域課題に応じた 学習・交流	高齢者支援・世代間交流	心のケア・健康管理	生活再建・地域づくり	地域人材育成	その他
	○				()

<取組の内容を具体的に記載>

講師・岩田真紫輝(宮古市在住)に季節にあったつるし飾りのパーツの作り方を指導して頂きました。

午前 10 名、午後 10 名の参加者で月に 1 回 12 回開催しました。のべ 214 人が参加しました。

材料費：¥1,000

第 1 回：風くるま 第 2 回：かきつばた 第 3 回：ききょう 第 4 回：金魚 第 5 回：菊 第 6 回：紙ふうせん
第 7 回：うさぎ 第 8 回：三角 第 9 回：羽子板 第 10 回：飾り付け 第 11 回：お雛様 第 12 回：桃の花



取組の変遷

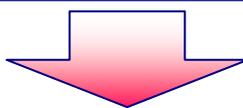
準備段階

◇被災による課題

仮設住宅での生活の方はもちろんですが、被災してはいるが住宅があっても地域が震災前と変わり、コミュニティ活動が少ないので、講座を通じて自ら学び、出会い、また仲間づくりの機会を提供し生きがいのある日常生活に寄与する。

◇住民等からの要望・必要な取組

街かどギャラリー開設の年から地元の名物になれたらと思い始めた「つるし飾りのパーツづくり」。沢山の方が夢中になり毎年アンケートをとっても人気のある教室です。



体制づくり・取組の実施

◇協力を呼びかけた団体・関係者、役割分担

- ・活動場所でもある街かどギャラリーのスタッフがコーディネート
- ・山田町内で個人的にパッチワークの教室活動をしている方に講師をして頂いた。
- ・参加者は、山田町広報や町内のスーパー、街かどギャラリーに募集チラシを掲示して行なった。

◇取組の充実や課題解決のための工夫

みんなで同じ作品作製に取組事により、楽しみながらも連帯感が生まれ参加者同士がお互いに教え合ったりと自然に交流が出来る。毎週開催する事により、親密度が高まる。



成果・課題や今後の展望

◇これまでの取組による成果

同じ作品を作製しながら参加者同士助け合い、お互いにサポートをし自然に交流を深める事が出来ていたと感じました。また、みなさんが夢中になり完成した時の喜ぶ表情など参加者の作る喜びを強く感じる事もできました。もちろん、活動終了後のアンケートでも同様に感じる事が出来ました。

◇復興に資する内容としての数値的達成の状況

この活動は、数値的に現す事が難しい内容ですが全 24 回開催しました。第 1 回午前 9 名午後 10 名・第 2 回午前 8 名午後 7 名・第 3 回午前 10 名午後 9 名・第 4 回午前 9 名午後 8 名・第 5 回午前 9 名午後 10 名・第 6 回午前 7 名午後 7 名・第 7 回 10 名午後 9 名・第 8 回午前 8 名午後 8 名・第 9 回午前 10 名午後 7 名・第 10 回午前 10 名午後 10 名・第 11 回午前 9 名午後 9 名・第 12 回午前 10 名・午後 9 名 合計 214 名と定員に対し 89%と高い参加率ではないかと思えます。独自のアンケートでは、利用者の満足度も 100%との結果でした。

◇課題や今後の展望

街もまだまだ復興が始まったばかりで被災された方、被災されていない方とさまざまですが、生活する中で不安を感じざるを得ない状況の中、少しでも楽しく夢中になれたり他の方との交流をする事により、心のケアや安らげる場所や活動はこの先もとても必要だと感じる。